

厚生労働省 薬系技官（総合職） 政策セミナー 第1回

「これからの薬局・薬剤師を考える」

理系の子カラで「生きる」を支える
厚生労働省 薬系技官（総合職）
政策セミナー 第1回

11/28 (土)
13:30-16:30
厚生労働省内

参加型
セミナー

これからの 薬局・薬剤師 を考える

私たちの命を守り、つなく医療。
その医療もまた、様々な問題に直面しています。

スペシャルゲストとして、病院・薬局それぞれで
ご活躍いただいている薬剤師の先生方
○ 東京大学医学部附属病院 薬剤部 大野 能之 先生
○ (株) ファーマシー東京支店長 孫 尚孝 先生
をお招きしました！
現場の取り組み、意見を踏まえつつ、薬局・薬剤師の未来を
一緒に考えてみませんか？

【申込方法】
11月25日（水）12時までにメールしてください！
（申込み多数の場合早めに締め切ることがあります）

連絡先：医薬・生活衛生局総務課 太田
recruitmhlwph@mhlw.go.jp
件名：政策セミナー（第1回）の申込み【氏名】
本文：①氏名（ふりがな） ②学年
③所属（学科まで）

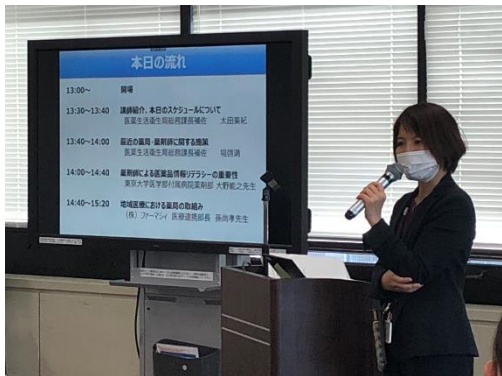


令和2年11月28日（土）に第1回薬系技官政策セミナーを開催致しました。

薬系初開催の参加型政策セミナーとして20名もの学生さんや社会人経験者の方にご参加頂きました。後半のディスカッションでは若手薬系職員も参加し、活発な議論が行われました。

第1回の政策セミナーのテーマは「これからの薬局・薬剤師を考える」です。当日はオープニングトークに始まり、施策紹介、ご講演、グループに分かれたディスカッションと短い時間ながらも盛りだくさんの内容で、医薬・生活衛生局の一丁目一番地ともいえるテーマについて考える時間となりました。

冒頭では、医薬・生活衛生局総務課の太田補佐よりご挨拶および1日の流れのご説明がありました。開始直後は緊張した面持ちの参加者でしたが、お話の途中で会議室から臨む霞ヶ関の景色について解説があり、窓の向こうに鎮座する国会議事堂や外局のPMDAを興味深く眺めていました。職員を含め会場全体が徐々に和やかな雰囲気となったのが印象的でした。



続いて、医薬・生活衛生局総務課境補佐より薬局・薬剤師に関する施策を中心に、薬系技官が携わる施策等に関するお話を伺いました。まずは行政官としての業務の大枠や厚生労働省組織のご説明があり、続いて医薬局総務課の担う施策についてその背景も含め解説をお聞きしました。境補佐からの明瞭なご説明により、若手職員の私自身も薬事行政周辺の知識について大変勉強になりました。総務課は薬機法改正という非常に大きな施策から、「薬と健康の週間」という啓発活動まで幅広いスコープで業務を行っていることを学びました。



ご講演では、現場でご活躍されている2名の先生方をお招きし、病院、薬局それぞれの観点からお話を伺いました。

東京大学医学部附属病院薬剤部 大野能之先生からは「薬剤師による医薬品情報リテラシーの重要性」、株式会社ファーマシイ 孫尚孝先生からは「地域医療における薬局の取組み」と題しご講演頂きました。

まずは、大野先生より薬剤部での業務内容や先生がご担当されている薬品情報室（DI室）の業務を導入としてお話し頂き、後半では薬の専門家である薬剤師のリテラシーというテーマから薬物動態や薬学的観点からの相互作用の評価について実例を交えながら講義頂きました。大学では計算問題としての印象しかなかった薬物動態学について、臨床上では非常に重要な役割を果たすことを再認識するとともに、薬学的知見に基づく知識を以下に現場に応用していくかと

いった薬剤師としてのリテラシーについて考えさせられる時間となりました。

続いて孫先生より薬局薬剤師の業務、特に地域において薬局薬剤師が担う役割について、株式会社ファーマシィでの取組をご紹介頂きながらご講演頂きました。先生のお話をお伺いする中で、薬局薬剤師は在宅医療、入退院時のフォローアップ、薬物治療の継続的な支援、医薬品適正使用の推進、健康サポートなど、医療の枠だけに留まらない患者への幅広い支援が可能な存在であることを実感させられました。一般の方からは調剤室や薬局の中の姿が見えにくい薬剤師ですが、先生のように地域に繰り出し国民に寄り添う薬剤師が増えると非常に心強いと感じました。参加者から指摘のあった病院薬剤部と地域薬局との連携についても薬剤師の職能を活かし、それを患者や国民へ還元する仕組みとして今後さらに推進されることを願うばかりです。



東京大学医学部附属病院薬剤部大野能之先生



株式会社ファーマシィ 孫尚孝先生

ご講演後は、参加者が少人数のグループに分かれ「これからの薬局・薬剤師」についてディスカッションを行いました。大野先生や孫先生、薬系職員が各テーブルを巡回し、熱い議論が交わされました。テーマに対し限られた時間設定でしたが、実際の施策検討現場をリアルに再現したようにほどよい緊張感のなか、先生方や職員からのサポートも得つつ、意見をまとめていきました。



ディスカッション後には各グループの代表者より発表が行われ、最後に大野先生、孫先生、医薬・生活衛生局総務課 安川薬事企画官よりそれぞれご講評を頂きました。

多くのグループで薬歴など薬局を訪れる患者さんについてのデータの一元化を提案する意見が上がりました。病気の患者さんだけでなく、健康な人にも薬局を利用してもらうための仕掛けとしてスポーツジムと薬局との連携という斬新なアイデアも発表されました。

既存のシステムや社会の常識を覆すのは非常に困難なことです。国家公務員の薬系技官は、「社会・国民のために」と考えるアイデアや自分の熱い思いを「政策」という形を通して現実に近づけることが出来る唯一無二の立場です。ディスカッションで交わした意見はジャストアイデアですが、その中には今まさに政府内で検討が行われている内容もありました。参加者の皆さんが、本セミナーやイベントを通して薬系技官の面白さに気づき、興味を持ってくれたならば嬉しい限りです。



セミナー終了後も参加者同士や若手職員との間でセミナーの感想や薬系技官の仕事に関してなど様々な意見交換が行われ、大盛況のうちにクロージングとなりました。